

50万分の1活構造図「東京」(第2版) 重力構造図

本図には、地下の密度構造を反映するブーゲー異常(仮定密度:2.3g/cm³)を等重力線で示した。等重力線は正異常は赤色、負異常は青色で、2.5ミリガル間隔で表示した。また、関東地方については、おおむね先新第三紀基盤の深度に対応する重力基盤深度を500m間隔の段彩により表現した。本図には、重力構造と活断層などとの関係が一目で分かるように、主な構造要素を重ねて表示した。丹沢山地周辺、房総・三浦地域、富士川下流域などでは、重力構造と活構造との対応が顕著に認められる。〈地質調査所 駒澤正夫・広島俊男・長谷川 功・村田泰章・杉山雄一〉

